

# 女性の視点からの 防災対策のススメ

男女が共に支え  
助け合える  
地域づくり  
防災体制づくり



風水害や地震などの災害は、いつ起こるか予測が難しいだけでなく、起こった場合は、誰もが被害を受けます。

このリーフレットは、「災害の被害を受けやすい女性」

「防災・災害復興の担い手としての女性」双方の立場から

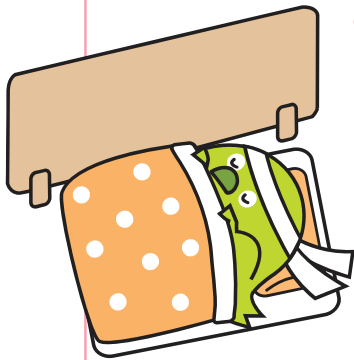
**避難所生活での工夫や日頃の備え**についてまとめたものです。

大分県

# もしもあなたの地域で災害が起こり、避難所生活を余儀なくされたら…

## 安全・安心・快適な空間を確保しましょう

避難所では、限られた空間で多くの人々が集団で生活することになります。被災者が、更なる二次災害を受けることがないように、次のような工夫を図ることが必要です。

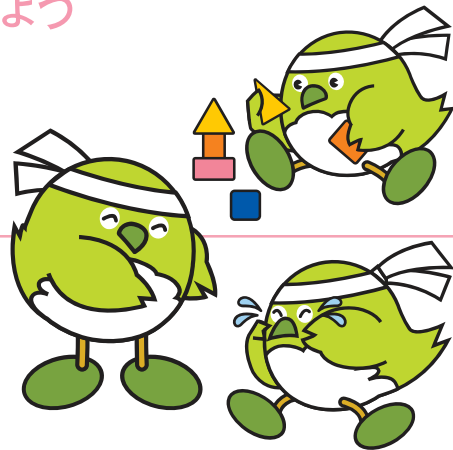


●一人暮らしの女性や高齢者・障がい者、乳幼児のいる家族等の被災者の状況に応じ、間仕切りをするなどの配慮を行い、快適な居住スペースの確保に努めましょう。

●仮設トイレの設置にあたっては、特に女性や子どもの安全・安心に配慮した場所や通路を確保しましょう。

●男女別の更衣(又は化粧)スペースを用意しましょう。

※女性用化粧室には、鏡や女性用品を準備しておくくと便利です。



●女性用洗濯物の干し場を確保しましょう。

●乳幼児のいる家族に配慮した授乳スペース・育児スペースを確保しましょう。

●女性や子どもへの暴力を防止し、心身の健康を守るために、女性や子どものための相談窓口を設置しましょう。

※過去の大震災では、女性や子どもに対する暴力(ドメスティック・バイオレンス、性犯罪等)が増加したという調査報告があります。

●イベントの開催や、誰もが利用できるフリースペースを確保し、心身のリフレッシュやストレス解消を図りましょう。

このような空間を確保することで、被災者同士のプライバシーや、特に女性の安全・安心が守られることとなります。

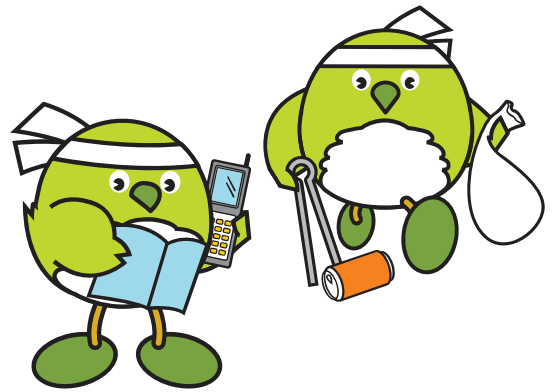
安全・安心・快適な避難所生活を確保するため、  
さまざまな工夫を図りましょう

## みんなで共同して作業をしましょう

阪神淡路大震災や新潟中越地震などの過去の災害発生時の経験では、男性は早い段階で職場へ復帰する一方、不便な生活環境の下での家事や育児などの家庭的責任に対する負担が、女性に集中してしまいました。このような事態がおこらないよう、避難所内外での作業をみんなで共同することが重要です。具体的には、次のような作業が考えられます。

- 食事の準備や片づけ
- 物資の配布等
- 共有スペースやトイレの掃除
- ゴミの処理
- 行政との連絡
- 防犯(見回り)
- イベントの企画及び開催
- 家の後片づけなどの復旧作業 など

みんなで作業を共同することで、被災者がお互いの活動を評価し、尊重しあえるようになります。



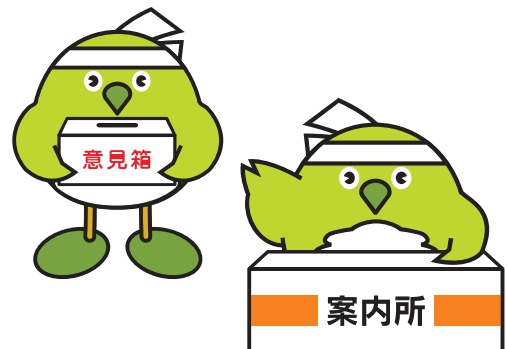
### 共同作業のポイント

- 個人の能力・才能・特技を生かしましょう。
- 一つの活動(作業)において、性別が偏らず、男女がともに活躍できるようにしましょう。
- みんなが公平に作業を行えるようローテーションを組みましょう。
- 日中、夜間、休日等いろいろな時間帯に対応できるようにしましょう。

## 男女のニーズの違いに的確な対応をしましょう

刻々と変化しつつある状況に柔軟に対応していくために、常に被災者のニーズを把握するよう努めましょう。

避難所の運営のあり方を決める際にも、被災者の声を幅広く聞き入れることができるような工夫をしましょう。



- 避難所運営には、男性と女性の責任者を配置しましょう。
- 生活者の視点に立ったニーズが把握できるよう女性の意見を積極的に聞きましょう。
- 避難所生活や生活再建などの問題でストレスを抱えた人々のために、避難所内に各種相談窓口や意見箱を設置しましょう。

- 被災者が求める情報が正確に、避難所のすべての人にわかりやすく伝わるよう、伝達方法を工夫しましょう。特に、移動が困難な人や視覚・聴覚障がい者の人などに対する配慮をしましょう。
- 女性が日頃から培ってきた地域の人的ネットワークやご近所づきあいなどの地域コミュニティを活用し、被災者の安否確認や避難所での声かけを行いましょ。

# いつ起こるかわからない 災害に備えて…

女性が地域防災の担い手として活躍できるよう  
日頃から女性の参画を図るようにしましょう



## 防災訓練や防災に関する学習会などを 積極的に行い、参加しましょう

性別や年齢を問わず、誰もが災害時に活躍できるよう、日頃から地域で、応急手当や避難時に必要な防災資機材(バール・ジャッキ)の取扱い方の学習会などを開催しましょう。こうした学習会などを通じて、防災に対する共通の認識を持つことにより、地域コミュニティの一員として重要な役割を担うことができるようになります。

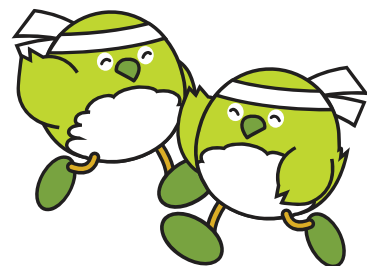
### 開催のポイント

話し合いや学習会は、地域で定期的に行われるイベント(祭り・運動会など)と連携して行くと、より多くの人に参加してもらうことができます。

## 防災・災害復興の分野への女性の参画を推進し、 防災活動の活発化を図りましょう

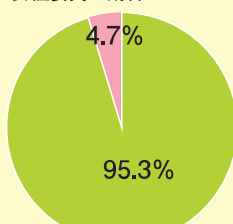
防災・災害復興対策や方針決定の場、消防団や防火クラブ等の防災組織、自治会や民生委員等の地域コミュニティへの女性の参画を積極的に進めましょう。

女性が、防災・災害復興の分野へ参画することにより、地域の防災力の活性化が図られます。



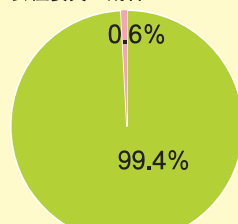
防災・災害復興分野等への女性の参画状況 (県民生活・男女共同参画課調べ) (参考資料)

平成18年度大分県防災会議での  
女性委員の割合



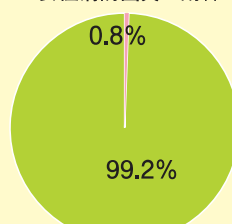
■ 男性43人  
■ 女性 2人

平成18年度市町村防災会議での  
女性委員の割合



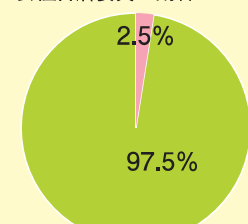
■ 男性349人  
■ 女性 2人

平成18年  
女性消防団員の割合



■ 男性15,991人  
■ 女性128人  
※女性消防団員がいる市町村は、  
10/18市町村(H18年度)

平成17年度市町村における  
女性自治委員の割合



■ 男性4,227人  
■ 女性108人

## 男女がともに支えあう地域づくりに努めましょう

緊急な災害時においても、男女が共同して災害復興に対応できるよう、常日頃から、家庭や地域、職場などでの男女共同参画を実践し、男女がともに支え合う地域づくりに努めましょう。

平成19年2月発行

発行者/大分県生活環境部  
県民生活・男女共同参画課  
TEL.097-506-3047  
防災危機管理課  
TEL.097-506-3155  
〒870-8501大分市大手町3-1-1